



# 1 目標設定（4月）子どもを 学校を 地域を そして 自分 を見つめ目標を設定し 全員参画体制をつくろう

学校運営や教育活動について、PDCA（目標 Plan）実践（Do）評価（Check）改善（Action）サイクルに基づいて継続的に教育活動を改善していくために、教職員全員参画で学校教育目標の実現を目指し、具体的目標等を適切に設定します。 資料P43、P44  
大切なのは、子ども、学校、地域の現状や課題をしっかりと把握することです。

## 始まりは、学校教育目標づくりから

学校教育目標は、目の前の子どもを育てあげようとする望ましい人間の姿についての具体的な『めあて』であり、学校を機能させるための基軸となるものです。

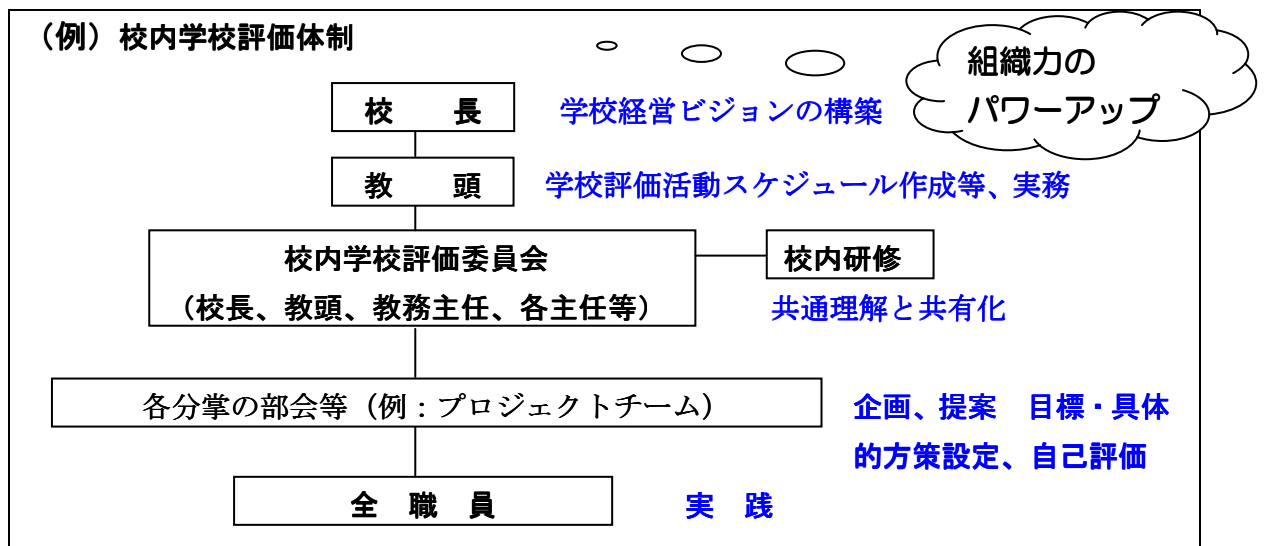
子ども・保護者の意見や、地域住民等の声を受け止め、また、教育活動の実践者である個々の教職員や集団としての意見を踏まえ、将来への見通しを持ち、学校づくりのビジョンや学校教育目標、学校経営方針を策定することが大切です。

学校教育目標が、具現化され、全教職員に学校のめざす学校像が明確にされることが重要です。学校教育目標から年度の重点化された具体的な目標が設定されることが学校自己評価の始まりとなります。重点目標は、学校の伸ばそうとする特色、解決をめざす課題に応じて精選します。

## 評価活動が進めやすい体制、全員参画の組織を作ろう

教職員全員の参画意識を高め、組織力向上をめざし、組織、体制作りに取り組みます。

- ① 学校評価活動スケジュール、目標や具体的方策は、校長のリーダーシップの下、全教職員で共有化し、目標達成に向けた意識を高めましょう。
- ② 校務分掌や校内運営機構は、目標を具現化するチームとすることが必要です。
- ③ 学校評価システムを計画的にすすめ、全職員参画の学校評価にするためには、校内学校評価委員会を設置するなどの体制づくりが必要です。



## みんなで取り組むために、みんなが当事者意識をもとう

- ① 校務分掌に割り当てよう。一人一役としよう。  
校務分掌のそれぞれの中に、学校評価を位置づけます。 資料P45
- ② 各担当者が、PDCAサイクルで学校改善を進めよう。  
目標設定 → 実践 → 評価 → 改善 → 次年度目標設定 P12参照
- ③ 各担当者が、学校関係者評価委員会や職員会議で、進捗状況、各結果を発表しよう。  
それぞれが責任を持って、学校評価を推進します。
- ④ 学校関係者評価委員会には、全職員が出席して協議し、共通理解・共通実践をしよう。  
全職員の参画意識を高め、学校改善を適切に進めます。
- ⑤ 職員会議の中で、必ず協議または、報告の時間を設定しよう。  
毎回、学校評価について確認することが、共通実践につながります。

## みんなで設定しよう 評価項目、具体的目標、具体的方策

資料P43、P44

学校教育活動や学校運営についてPDCAサイクルに基づき継続的に改善するために、評価項目、具体的目標、具体的方策を適切に設定します。

学校が取り組む教育活動を具体的に示す部分です。成果を上げるためには、学校教育目標、教育活動と学校評価の連動を図る必要があります。評価のための評価にならないようにするためにも、教職員全員が意識して取り組むことができ、実効性のあるものに設定します。

- ① 重点目標等の達成に向けた具体的な取組を**評価項目**として設定します。何に取り組むのかということが分かる文言にします。
- ② 各評価項目の**具体的目標**は、目標達成状況を把握するためのものです。成果が子どもや保護者、教師の姿として表れてくることに着目して設定しましょう。
- ③ **具体的方策**は、目標達成に向け、学校がどんな取組をするかということです。
- ④ 自己評価を実施する際に、成果として表れた姿と学校の取組状況の両面から評価できるように、評価目標、評価項目を設定しておきます。
- ⑤ 評価項目、具体的目標、具体的方策は、学校関係者評価委員や一般の保護者、地域への情報提供を考え、分かりやすく、理解しやすい表現にしましょう。高度に専門的になったり、詳しすぎたりしないようにしましょう。
- ⑥ 学級経営案が、学校評価及び評価育成システムと連動するように計画しましょう。

## 評価項目は、年度初め（4月）にお知らせしましょう

年度初めに、保護者や学校関係者評価委員の方々に、保護者アンケート項目、また、学校関係者評価項目について、お知らせしておきましょう。 資料P46、P47

そうすれば、普段から視点を持って、授業参観や学校行事に参加していただけます。

# 1 目標設定（4月） 実践例

学校経営ビジョンを目の届くところに置いて、日頃から意識付けをすることによって参画意識が高まります。

## 1 共通理解を図るための手だて

学校改善を行うためには、全教職員の共通理解が必要です。そこで、年度初めに校長が学校経営ビジョンを明示します。それにより、全教職員が、目指す学校の姿及び学校教育の重点項目等を念頭に置いて日々の教育実践を遂行することができます。

常に意識化を図る手だてとして、ラミネート加工を施した学校経営ビジョンを全教職員が職員室の机の上に置くことにしました。学校経営ビジョンの裏には、具体的目標や具体的方策等を書いた総括表を印刷し、教育実践を検証できるようにしています。

また、全教職員が学校評価に関する資料等を各自ファイルし、機会あるごとに振り返りができるようにしています。そして、プロジェクト会議では、ラミネート加工を施した学校経営ビジョンと学校評価に関するファイルを持参し、それらをもとに話し合っています。

さらに、職員会議の際は、ラミネート加工を施した学校経営ビジョンを机の上に置き、年度初めに考えた方向に学校が進んでいるかを検証しています。学校評価は、コミュニケーション・ツールであるという認識のもと、取組の適切さや成果を教職員が確かめ合って進めていくことで、教職員同士のコミュニケーションが生まれています。

ラミネート加工を施した学校経営ビジョン		総括表		具体的目標や具体的方策等を書いた総括表	
<p><b>平成21年度 学校目標</b> 笑顔いっぱい、生き生きと学ぶこどもの育成</p>		<p>領域</p> <p>評価項目</p>	<p>評価の観点 (具体的評価項目)</p>	<p>具体的目標</p>	<p>具体的方策</p>
<p>学校経営ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童に生きる力を育むことをめざし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。</li> <li>●児童が安心・安全な体制作りを行う。</li> <li>●全教職員が一体となって児童の教育活動や課題に取り組み、厳正な服務の保持に取り組むとともに、組織として和を重んじる明るく、活気のある学校経営をめざす。</li> </ul> <p>めざす児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自ら学び、よく考え実行する、かしこい子ども</li> <li>●話をよく聞く子</li> <li>●素直に行動できる子</li> </ul> <p>めざす学校の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安全・安心で美しい環境の学校</li> <li>●地域に信頼され、地域とともに教育活動を行う学校</li> <li>●明るく、楽しい学校</li> </ul>		<p>学校経営方針</p> <p>学校経営ビジョンと重点目標の周知</p>	<p>保護者の認知度を80%以上とする</p>	<p>教育目標を児童・保護者が見やすい場所に掲示する。</p> <p>職員会議・全校集会等で十分に時間をとって説明する。</p> <p>学校だよりに重点目標等を記載したり、PTA総会で周知したりする。</p>	<p>○研究授業を1回以上行う</p> <p>○グループ研究授業や全校研究授業に意欲的に取り組み、協議を重ね、指導力向上を目指す。</p>
<p>学校評価</p> <p>教職員の資質向上</p> <p>児童理解力の向上</p> <p>服務規律の徹底</p>		<p>授業力の向上</p> <p>児童理解力の向上</p> <p>服務規律の徹底</p>	<p>児童の心情を読み取れる教職員をめざす</p>	<p>○児童の心情を読み取れる教職員をめざす</p>	<p>○年2回の「支援を要する児童」の連絡会。毎週月曜日の職員連絡会などを通して児童理解に努め、児童に寄り添うことのできる教職員をめざす。</p> <p>○職員会議を通して教職員としての意識の向上を図る。</p> <p>○個人情報・飲酒運転撲滅・交通ルールマナー遵守に向けて、具体例を挙げて取り組む。</p>
<p>安全対策</p> <p>危機管理体制の整備</p>		<p>安全安心な学校をめざす</p>	<p>安全対策の徹底と施設の整備を行う。</p> <p>○緊急の交通指導。下校時における地域への協力要請等を通して安全指導の徹底を図る。</p>	<p>○安全対策の徹底と施設の整備を行う。</p> <p>○緊急の交通指導。下校時における地域への協力要請等を通して安全指導の徹底を図る。</p>	

## 2 モラル向上のための手だて

一人一人がクリエイティブに考え、提案、実践する評価を目指しています。

具体的方策や評価項目等を、プロジェクトを中心に考えることにより、ボトムアップ型の学校運営を目指しています。それぞれのプロジェクトが責任を持つことで、参画意識が高まり学校改善につながっています。

また、PDCAサイクルで組織として取り組むことの素晴らしさと重要性を実感できるようにしています。さらに、プロジェクトの部長を中心とした「ミドルリーダー」の育成に努めています。

なお、学校評価と評価育成システムにおける自己目標申告書の各教職員の目標や取組について、関連を図るように心がけています。つまり、学校評価を活用しながら、学校改善及び教職員のスキルアップに努めています。